

47都道府県プロフィール
2023年1月～2023年6月

長崎県

長崎県 外国人労働者 6 9 5 1 人過去最多に 人手不足受け

2023年02月09日

長崎県内で働く外国人労働者が、一部の業種で慢性的な人手不足が続いていることなどを受けて去年10月末の時点でこれまで最多の6951人となったことが、長崎労働局のまとめでわかりました。長崎労働局によりますと、県内の事業所で働く外国人は去年10月末の時点で6951人でした。これは前の年の同じ時期より1169人、率にして20.2%増え、公表が始まった平成20年以降最も多くなりました。



<https://www3.nhk.or.jp/lnews/nagasaki/20230209/5030017181.html>

長崎県は外国人材受入促進セミナー、外国人依存度が急激増加

2023年1月15日

長崎県では、技能実習生をはじめとした外国人材の受け入れを推進している。その目的は、技能や技術の移転による国際協力を図ること、高齢化や担い手不足に悩む企業等に適切な人材確保を図ること、ひいては技能・技術等を取扱った外国人材の帰国後に、本県とのゆかりを有するこれらの人材を活かした県内企業の海外展開にもつなげていくことを視野において事業を推進している。



圏域別無料セミナー

令和3年度
外国人介護人材
受入促進セミナー

本セミナーは以下を目的として開催いたします。

- ・多くの介護施設等に外国人介護人材を受け入れる制度（特に特設枠）の周知を図ること。
- ・介護施設等の外国人介護員受入れへの動きを促進すること。
- ・既に受け入れている事業所に対しては、外国人介護人材のさらなる受け入れや定着を促進すること。

<https://portal-worlds.com/news/asean/29861>

ベトナム・ハノイで外国人技能実習生の採用面接 雲仙温泉の2旅館が実施

2022年12月20日

長崎県雲仙温泉の2旅館は11月22日、ベトナム・ハノイで外国人技能実習生の採用面接を行った＝写真。日本の人口減少やインバウンド客のさらなる拡大で外国人材の重要性が高まっていることなどを受けて実施。4人の採用を決めた。今後半年間の研修の後、来日し、3年間の実習に入る予定だ。面接を行ったのは、雲仙福田屋（福田努代表）と雲仙いわき旅館（石動隆祥代表）の2館。外国人技能実習生の監理団体である大地事業協同組合（大阪府茨木市、細田喜代司理事長）の仲介で、現地送り出し機関「LABCO」の学生8人と直接現地で面接するに至った。



【長崎】ミャンマー人技能実習生が着物姿で日本文化を体験

2023年03月30日

佐賀県武雄市にある「御船山楽園」の夜桜を鑑賞したのは、着物姿のミャンマー人女性7人です。長崎市に本社を置く総合物流企業「株式会社丸野」で倉庫の仕分け作業などを担当する技能実習生です。7人は「日本の着物を来て桜を鑑賞したい」と憧れを持っていたことから「丸野」の社員が着付けやヘアメイクなどを手配し、実現しました。「丸野」では4年前からベトナムやミャンマーからの技能実習生を受け入れています。日本の歴史や文化に触れる体験学習を通して社員との交流を深め、業務の質の向上につなげたいとしています。



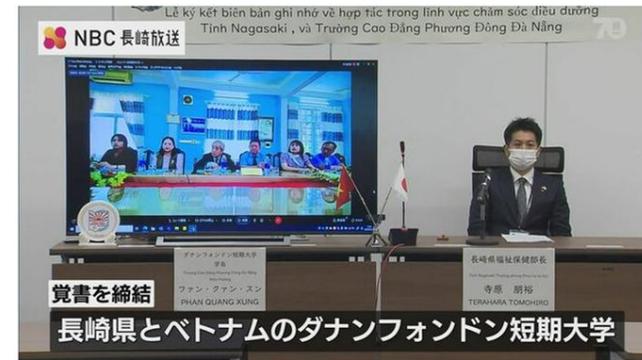
<https://www.sagatv.co.jp/news/archives/2022112411573>

技能実習生の現状と今後は？ベトナムの短大と長崎県が“介護分野”で覚書 締結式

2023年1月12日

ベトナムの学生が県内の介護分野で学べるよう、互いに支援するための覚書が12日、長崎県とベトナムの短期大学の間で交わされました。

一方で政府は『外国人技能実習制度の本格的な見直し』に向けて議論を進めています。今回の覚書により、短大側が、長崎で技能を学びたい介護分野の学生を推薦し、県側が介護事業所で働けるようマッチングをして、年に10人程度の技能実習生を受け入れる予定です。



47都道府県プロフィール
2023年7月～2023年12月

長崎県

地元で働く技能実習生ら 住民へ感謝のスピーチ 五島・山内特産物祭り「ごろっと」

2023/11/26

長崎県五島市岐宿町の旧市立山内小で23日にあった特産物祭り「ごろっと」では、地元で暮らす外国人技能実習生によるスピーチイベントがあり、ミャンマー人2人が五島での暮らしや地域の人たちへの感謝を語った。

2人はトゥ・ミャツ・トゥエさん（24）とワイン・ティン・ザーアウンさん（22）。いずれも7月に五島を訪れ、地元のデイサービスセンターやまうちで介護業務に携わっている。

同国の伝統衣装「ロンジー」を着た2人は約4分ずつスピーチ。トゥさんは「ミャンマーでは大好きな自然の中で野菜を育てていた。五島に来る時は不安もあったが、自然豊かでミャンマーと似た景色で安心した」と述懐。「介護の勉強は難しいが、職員さんと一緒に頑張っている。これからも一生懸命頑張る」と述べた。



<https://nordot.app/1101337177650872427>

島原半島で働く技能実習生らと交流会 「選んでもらえるように」

2023/11/08

島原半島内で働くベトナムなどの技能実習生や地元高校生らが集まって、レクリエーションなどを行う交流イベントが10月22日、長崎県南島原市北有馬町のエコ・パーク論所原（ろんしょばる）で開催された。

「外国人×島原半島ブリッジプロジェクト第1弾」と題するこの交流会は、島原半島が当たり前のよう外国人を受け入れられるよう、海外の文化や民族の多様性を尊重する視点を養う土壌づくりが目的。一般社団法人「島原半島観光連盟」が初めて開いた。交流会にはベトナムやインドネシアの技能実習生、スリランカの留学生、ALT（外国語指導助手）ら外国人46人と、地元高校生ら日本人70人が参加。ドッチビー競技の後、バーベキューを楽しんだ。カラオケ大会では、母国語で熱唱する技能実習生らに盛大な拍手が送られていた。



<https://www.asahi.com/articles/ASRC77FD6RBZTOLB004.html>

日本ベトナム外交50周年 長崎県内で積極的な民間交流 旧正月の文化紹介や招待サッカー

2023/10/29

日本とベトナムは今年、外交関係樹立50周年を迎えた。同国と歴史的にゆかりの深い長崎県では行政だけでなく、民間レベルでも積極的な交流が広がっている。県内在住のベトナム人らは年明け、長崎市で同国の旧正月の県とのゆかりは16世紀の朱印船貿易の時代までさかのぼり、貿易拠点だったクアンナム省と県は2017年文化や食を紹介するフェスティバルを初計画。佐世保市では今月、同国の小学生を招いたサッカー大会が開かれるなど、異文化や多様性を受け入れるための“種まき”が進んでいる。

本に友好交流関係を結んでいる。法務省の統計によると、22年末時点で本県在住のベトナム人は2506人で、県内の在留外国人1万1214人のうち最も多い。長崎市498人、諫早市414人、佐世保市325人など、留学生や技能実習生らが各地で暮らしている。



<https://nordot.app/1091167994260619649?c=1747611139887938>

インドネシア人社員寮が完成 巻き網漁業会社「天洋丸」 スパイシー料理 理で住民と交流 長崎・雲仙

2022/9/06

長崎県雲仙市南串山町の巻き網漁業会社「天洋丸」のインドネシア人社員寮「ルマ・ヌサンタラ」が同町に完成した。ルマは同国の言葉で「家」の意味。4日夕は完成を祝い、インドネシア料理のパーティーを開き、住民や社員ら約50人がスパイシーな料理を味わいながら交流した。

同社は橘湾内で中型巻き網船団を操業し、煮干し加工用のカタクチイワシなどを取っている。船団には20人以上が必要だが、乗組員のなり手不足は深刻。同社は2017年から外国人技能実習生を受け入れている。現在はインドネシアの10～20代の8人で、このうち2人は「特定技能」の在留資格がある。



映画「ワタシタチハニンゲンダ！」上映会 1月10日、長崎大で

在日外国人に対する差別の実態を追ったドキュメンタリー映画「ワタシタチハニンゲンダ！」（114分）の上映会が来年1月10日午後0時10分から、長崎大文教キャンパス（長崎市文教町）である。高校無償化制度からの朝鮮学校の排除、技能実習生の長時間・低賃金労働、そして入管施設での死亡事件――。外国人の人権問題が国内で相次いでいる。人権侵害に苦しむ外国人らが異口同音に訴える「私たちは動物ではない。人間だ！」という言葉からタイトルをとった。

2023/12/22



<https://www.asahi.com/articles/ASRDP7QX5RDLTOLB010.htm>
|